

| 名 称 所 在 | 用 途 (令別表) | 発 生 日 時 等 | 構 造 ・ 階 層 面 積 | 焼 損 程 度 (焼 損 面 積) 延 焼 面 積 | 死 傷 者 |
|------------------------------------|---------------------|---|--|--|---|
| 吉 景 館 東京都台東区浅草 田中町 2 ～ 6 | 演 芸 場 (1)イ | 昭和39年11月22日 | 防 火 Ⅲ 級 | ④・半・部・小 378.9m ² (100%) | 死者 7(3)名 傷者 4(3)名 (2) |
| | | 出火 2 時00分ころ 覚知 2 時07分 覚知別 報知電話 鎮火 3 時43分 | 建 304.7m ² 延 378.9m ² | | |

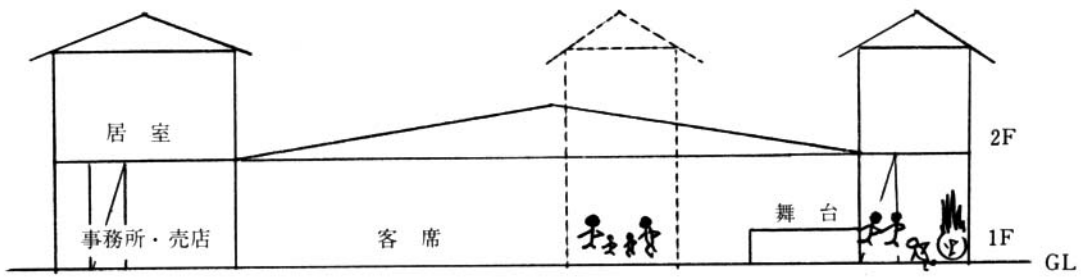
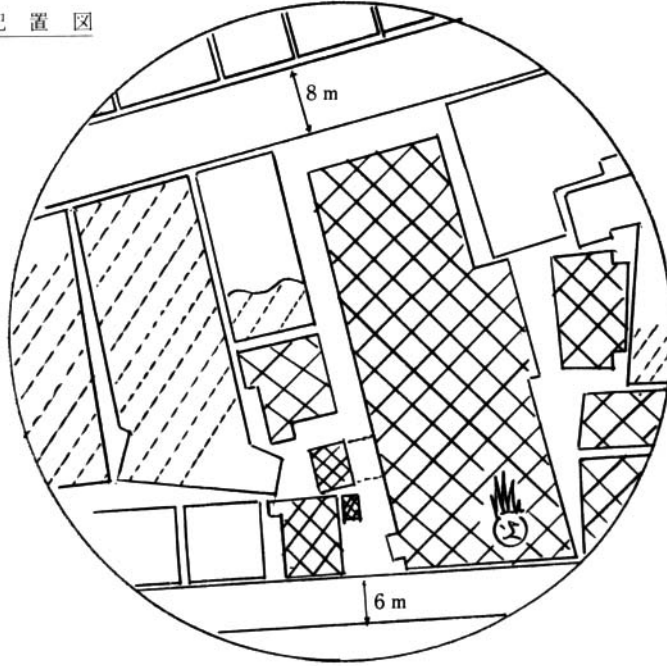
| I 火災概要 | | | | | | | | |
|-----------------------|--|---|-------------------------|--------|-----|--------|-----------------------|---|
| ① 概 要 | 深夜、山谷のスラム街にある演芸場から出火した火災は、発見が遅れたうえおりからの強風と、木造建物密集地域であったことから一挙に延焼拡大し、16棟延980m ² を焼失し、死者7名傷者4名を出し、過密都市に内在する危険性を浮きぼりにした火災であった。 | | | | | | | |
| ② 階 別 状 況 | 階 | 床面積 m ² | 焼損床面積 m ² | 用途(売場) | 在館者 | 死 者 | 避難設備等 屋内階段 2箇所 | 消防用設備等 ③消 ③自 ③誘 |
| | 2 | 74.2 | 74.2 | 楽屋・居室 | 4 | | | |
| | ① | 304.7 | 304.7 | 舞台・客席 | 6 | (3) | | |
| | 合計 | 378.9 | 378.9 | | 10 | 7(3) | | |
| | ③ 出 火 場 所 | (階, 室, 部位, 可燃物状況, 居室・非居室, 在・不在) 1階舞台裏の楽屋から出火 ○劇団員のG.M夫婦が就寝していた。 ○楽屋には舞台衣裳, 小道具類の収容可燃物が多数あった。 | | | | | ④ 出 火 原 因 | 寝たばこ 就寝前に吸ったタバコを完全に消さずに寝入ってしまい, タバコの吸いながら布団に着火し, 出火したものと推定される。 |

| | | | | | | | | | | |
|--|--|---------|--------------------------|--------|---------|--|--------|-------------------|--------------------------|---|
| ⑤ 火 災 の 延 焼 経 路 等 | (出火部位) (出火室の拡大) (他室への拡大) (上階への拡大) (隣接建物への延焼) | | | | | | | | | |
| | 寝具, ポリウレタンハマホーム | — | 衣裳・道具類 | — | 内装・幕類 | — | 階 段 | — | 防火戸のない外壁開口部 | |
| <p>1階舞台裏の楽屋から出火した火災は、楽屋内にあった衣裳、道具類に燃え移り、さらに楽屋と舞台部の間には完全な防火区画がないため舞台裏へ延焼した火炎は、経年変化による防炎処理の効果のない幕類、小道具類等に延焼拡大し、一挙に全館が火の海となった。また建物前面を除いての外壁開口部は全く防火戸がなく、客席天井がプラスチックで、屋根が鉄板であったことから火炎が両側開口部から隣接家屋へ延焼拡大していった。</p> | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 延焼拡大した主な理由 <ul style="list-style-type: none"> ○ 発見が遅れたうえ、初期消火が全く行われなかった。 ○ 建物の主体が十数年経過した木造建物であったうえ、防火区画がなく劇場等の性格から間仕切壁が少なく内部には幕類、小道具等の可燃物が多量にあった。 ○ 煙の伝播経路 <ul style="list-style-type: none"> ○ 火災の延焼拡大にともない楽屋から天井、壁伝いに急速に拡散していった。 | | | | | | | | | | |
| II 火災建物概要 | | | | | | | | | | |
| ① 建 築 | 着工・竣工又は主たる改築等 (確認) 昭和26年 1 月 日 (開業) 昭和26年 6 月 日 | | | | | | | | | |
| 管 理 状 況 | ② 縦 穴 の 状 況 | | | | | ③ 防 火 管 理 状 況 | | | | |
| | 階 段 <input checked="" type="checkbox"/> | ダクトスペース | <input type="checkbox"/> | エレベーター | パイプシャフト | <input type="checkbox"/> | エスカレータ | その他() | <input type="checkbox"/> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 支配人のT (38 才) が資格講習を終了し、防火管理者に選任され届出されていた。 ○ 演芸場で公演する劇団は旅廻りの小劇団であったうえ短期間に移動するため、実際の防火管理、消火訓練等を行なわれず、指導も徹底していなかった。 |
| 特記なし | | | | | | | | | | |
| 管 理 状 況 | ④ 防 火 区 画 等 | | | | | ⑤ 消 防 用 設 備 等 | | | | |
| | 特記なし | | | | | 自動火災報知設備は、昭和28年に設備されたが、施工会社がその後、解散し以後、保守整備がされていなかった。 | | | | |

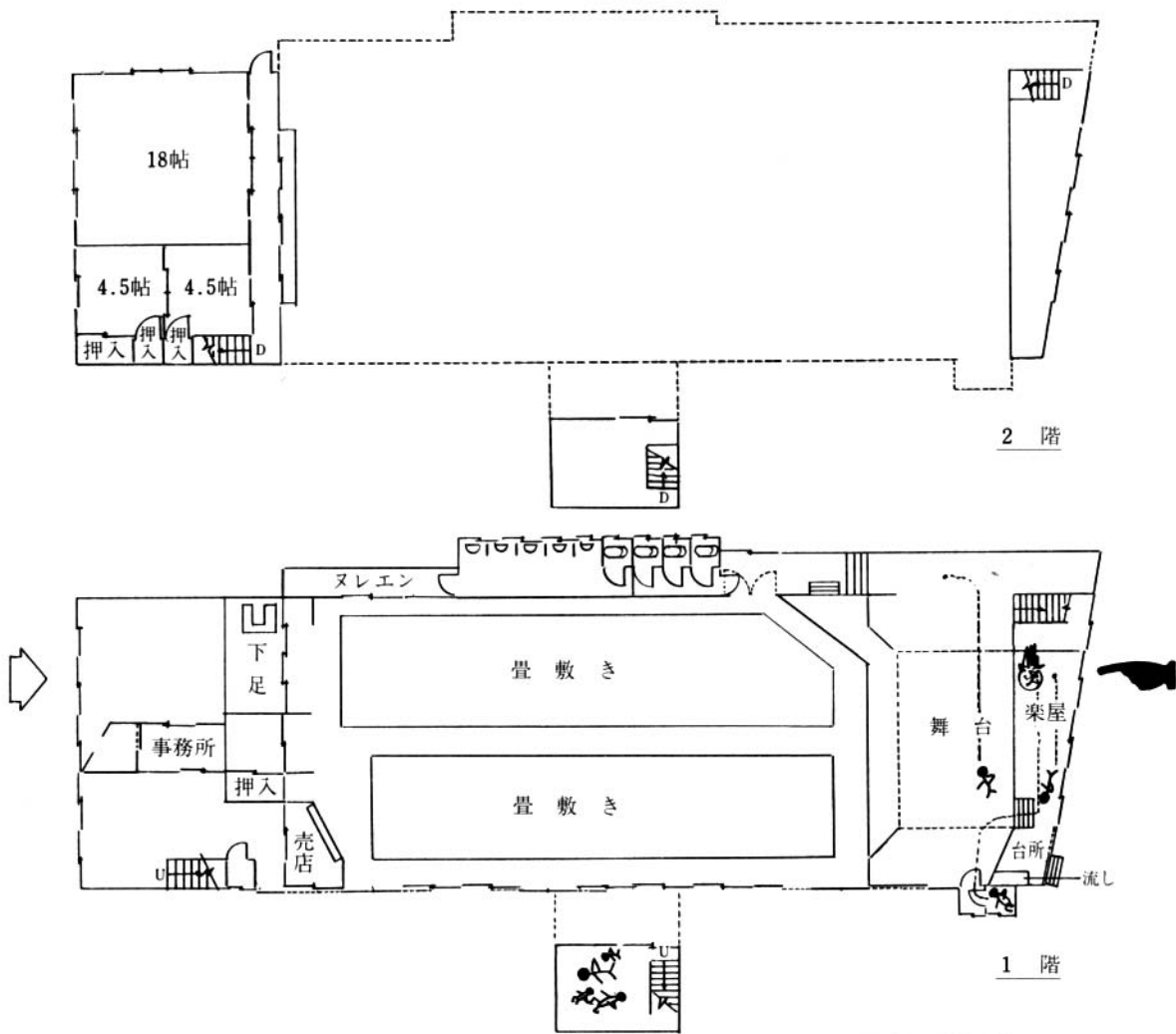
| III 火災後の行動 | | | | | | |
|-------------|--|---|--|---|-------|---|
| ① 発見状況 | <p>○発見者 (泊込んでいた劇団員) ○発見の動機 (不明) ○発見後の行動 (同僚を起す)</p> <hr/> <p>火災の発生を最初に発見したのは、焼死した劇団員Kである。Kは舞台東側面の通路上に同僚のSと寝ていたが、火災の発生に気付くや、隣床のSを起こし、その後舞台付近を大声で騒いで歩き廻ったらしいが、同人は焼死してしまったので、その行動の詳細は不明である。このKの叫び声で他の団員は避難行動を開始している。</p> | | | | | |
| ② 通報状況 | <p>通報した <input type="checkbox"/> 出火後約(7)分 しない <input checked="" type="checkbox"/> (近隣者)</p> <hr/> <p>劇団員一同は、就寝直後に火災が発生したため、火災の発生を通報することにより自分達が避難するのが精一杯の状態であったため、この火災はかなり進行してから演芸場の背面通路向いの住宅に居住するTが、異様な物音に眠をさまし、同家の2階窓から火煙を認めて、Tの長女に通報させている。</p> | | | | | |
| ③ 初期消火状況 | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%; vertical-align: top;">消火した</td> <td style="width: 30%;"> 成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> </td> <td rowspan="2" style="width: 50%; vertical-align: top;">(理由又は状況) 発見した時は、自分達が避難するのが精一杯の状態であり、初期消火の時期を過ぎていた。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">消火しない</td> <td> ○消火時期 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/> </td> </tr> </table> | 消火した | 成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> | (理由又は状況) 発見した時は、自分達が避難するのが精一杯の状態であり、初期消火の時期を過ぎていた。 | 消火しない | ○消火時期 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/> |
| 消火した | 成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> | (理由又は状況) 発見した時は、自分達が避難するのが精一杯の状態であり、初期消火の時期を過ぎていた。 | | | | |
| 消火しない | ○消火時期 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/> | | | | | |
| ④ 消火活動概要 | <p>(消防上の支障・困難性等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○先着隊が到着した時は、当館内部はすでに火勢の中期から最盛期に移行する時期であり、両側面の隣接家屋へ延焼中であった。当館から相当の火と濃煙が噴出しており、内部進入は不可能であった。 ○周辺は山谷のスラム街であり、火災現場に集った酔払いが消防活動を妨害した。 ○木造建物密集地域での強風下の火災であったうえ、深夜のため付近の環境条件から、商店が盗難予防のため、建物前面のシャッターをおろしていたため建物内部進入が困難であった。 | | | | | |

| | 避難方法 | 避難上支障事項 |
|--|---|---|
| ⑤ 避難 状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○階段を利用 <input type="checkbox"/> (人) ○エレベーター、エスカレータ利用 <input type="checkbox"/> (人) ○避難器具を利用 <input type="checkbox"/> (人) ○窓、開口部から直接地上へ <input type="checkbox"/> (人) ○救助 <input checked="" type="checkbox"/> (2人) ○その他() <input type="checkbox"/> (人) | <ul style="list-style-type: none"> ○無窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/> |
| ⑥ 死者 の 状況 | <p>健康人 7(3)名 (泥酔者 名) 要保護者 名 乳幼児 2名 高齢者 名 身体不自由者 名 病人 名</p> | <p>避難上支障となった事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○無窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/> |
| <p>○楽屋2階に寝ていた2名は、舞台部の騒音で火事を知り、階段から逃げようとしたが火煙で降りることができず、舞台西側の荷物昇降用の小窓から舞台へとびおり便所脇の出口から脱出。</p> <p>○館正面2階に寝ていた夫婦は、火災に気付いた時は階段からの脱出は不可能で、隣室の北側窓を開放し、窓からひさしに降りたところ到着した消防隊により救助されている。</p> <p>○1階の舞台、通路等で寝ていた劇団員は、舞台上の騒音で火災を知り、それぞれ出入口・非常口等から避難。</p> | | |
| <p>○出火場所と推定される楽屋1階に就寝していた夫婦は、一応避難行動を開始しているが、濃煙のため窒息したり、避難口を見誤って迷い込んで焼死している。</p> <p>○火災を最初に発見した劇団員Kは、舞台上で火災を知らせているうちに煙にまかれ、たおれてしまい、舞台上手の出入口直前の所で焼死体となって発見されている。</p> <p>○当館から1.8mの位置にあるバラック造物置兼住宅2階に就寝していた一家4名は、遅れながらも火災と知り、子供を背負って避難しようとしたが果せず焼死したと思われる。</p> | | |
| <p>IV 問題点・教訓等</p> | | |
| <p>1. 深夜の強風下に出火した火災であったうえ、当館は木造建物が密集する街区の中央に所在し、周囲の建物は、そのほとんどが違反建物で、隣棟間隔がないうえ裸木造あるいは防火戸のない建物、防火戸があっても閉められてなかった建物等が多く、これらの部分が火炎を一面に受けて延焼した。(全焼8棟を含む16棟, 延977.889㎡焼損, 死者7名, 傷者4名)</p> <p>2. 出火室には自動火災報知設備の差動式スポットが設置されており、機能が完全に維持されておれば早期に火災感知出来たと思われるが、出火時ベルの鳴動を聞いた者はおらず、感知効果はなかった。(受信機を見分したところ、ベル停止の状態になっていたが、これは受信機が焼失しており、キーが自由に動く状態になっているため、果してベル停止になっていたかどうかは判定できない)</p> <p>3. 実効ある防火管理体制がしかれておらず、訓練、教育等もおこなわれていなかった。</p> | | |

配置図



(隣家)



※ 2階で就寝しており、1階で焼死体と
なつて発見された。